ふるさと納税の現状と課題

私立洛南高等学校附属中学校　三年六組　古賀（こが）　達也（たつや）

学生の僕にとって自分が直接払う税といえば消費税くらいしかありません。ですので、税金についてあまり深く考えたことはありませんでした。しかし、「税金」という制度があるからこそ、僕達は安心して生活を送れているのです。もしなければ、僕達の生活には多くの障害が生じます。

さて、最近、ふるさと納税という言葉をよく耳にします。我が家でも両親が以前から関心を持っていて、今回初めて手続きをしようということになりました。

ふるさと納税は地域を寄附によって応援し、そのお礼としてその地域の特産品をもらえるというもので、実際ふるさと納税のサイトを見ると、まるで通販のカタログのように各地の特産品が並び、どれが良いかと迷うほどでした。納税者の立場で考えると、寄附先である地方自治体を選択でき、寄附のお礼としてその地域の特産品がもらえ、また寄附した金額から二千円だけ引いた分は控除の対象になる、というものなのでとても得だと思います。

また、地方自治体にとっても、その特色をアピールできる場になっていると思います。良いこと尽くめのようなふるさと納税ですが、逆に次のような点も心配に感じます。

例えばですが、大阪市在住の人が、他の自治体にふるさと納税をすることで、本来大阪市に入ってくるはずの税収が下がることになります。それによって、行政サービスの質が下がったり、税率が上がったりすることはないのでしょうか。ふるさと納税というと、地方の活性化への寄附のイメージが強く、そちらのメリットばかりが取り上げられがちですが、大都市圏でのデメリットはないのでしょうか？

また、寄附に対するお礼が豪華になりすぎて、赤字になっている自治体もあるそうです。寄附する側の方も、地域の方々も少し本来の趣旨を見失ってしまっている気がします。

ただ、普通の税金は強制的に徴収されて自分達でその使い道を選べないことを考えると、このような形で自分達で選択できる、ということは意義があると思いました。

「ふるさと納税」のサイトを見ると、特産品などに混じって、「災害の復興に対する寄附」や「景観を守るＮＰＯへの寄附」などがありました。僕は「国立大学のこんな研究に対する寄附」や「地方病院での医師不足に対する寄附」、また今話題になっている「国立競技場建設に対する寄附」といったものも行えれば、と思います。

地域を応援する本来の目的を取り戻し、ただ特産品をもらって得をしたいという考えから脱却し、地域の活性化を全国的にバックアップできる体制として、「ふるさと納税」がより成熟する必要性を感じました。